

(2) ドクターズクラークの育成・運用について (岡山県)

説明：女性医師の復職に関して、「職場に短時間勤務の女性医師が就職し、診断書などの書類を書いてくれるので助かる」との感想を聞く。職場で歓迎されることは本人にとっても喜ばしいことであるが、医師として診療するのではなくドクターズクラークで間に合う仕事をしていることに疑問を感じる。ドクターズクラークという職能を広報し、勤務医の就労環境を改善するとともに「女性医師と就労環境整備事業」と連携し、復帰した女性医師が雑用係として使われるのではなく医師として働いていただきたいので、この点のアピールをお願いします。

保坂シゲリ日本医師会常任理事は、「8県10学院で実施されている日本医師会医療秘書学院連絡協議会への参加を促し、この問題については双方の問題がある。診断書の記載も医師として大事なことである」とコメントした。

コメントを受け、山口県医師会から、実践で

きる医療秘書の養成を日本医師会に臨むといった発言があった。本会医療秘書副担当の温泉川常任理事は、広島県医師会(安田女子短期大学へ委託)が実施の医療秘書の養成状況を説明し、資格を取得しても医療機関への就職が少ない現状などを報告した。

(3) 女子医学生の将来を考えるサークルの全国ネットを構築するためのサポート (岡山県)

説明：岡山ではこれまでに Doctor's Café in Okayamaを開催、また、女子医学生が自分たちのキャリアを考えるサークルを設置する予定である。こうしたサークルが全国的にネットワークを作ると素晴らしいと思うので、ぜひ、サポートをお願いします。

保坂シゲリ日本医師会常任理事は、「トップダウンでの実施はいかがなものか。学生の自立の問題であると考え、頭の中には入れておく」とコメントした。

祝

会員の栄誉

厚生労働省労働基準行政関係功労者表彰

広島労働局長表彰



山田博隆氏
・山田整形外科医院(三次市)

広島労働局長表彰



望月昭氏
・医療法人社団さつき会 望月整形外科医院(廿日市市)

(12月1日(木) 広島労働局にて表彰)

おめでとうございます。今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。